

## 松くい虫被害木の有効利用について～嫌われ松っこの一考～

東北森林管理局 庄内森林管理署 温海森林官 木村 研士  
(元 岩手南部森林管理署遠野支署)  
岩手南部森林管理署遠野支署 附馬牛森林官 石橋 史朗

### 1 課題を取り上げた背景

遠野支署管内遠野市宮守町（旧宮守村）に所在する砥森山国有林は、花巻市（旧東和町）と遠野市の境にあり、山麓には雄大な田瀬湖（ダム湖）が広がっています。しかし、近年松くい虫の被害により、山麓沿いの市道周辺では、被害木を駆除した燻蒸材が傾斜地に大量に集積されており、中には滑落防止杭が腐食し道路付近まで崩れ、市道利用者への危険や景観を損ねる問題が浮上しています。こうしたことから、燻蒸材を適切に処理していく必要があると考え、燻蒸材の特性を調査し、有効な資源として利用していく方法がないか研究を行いました。

### 2 取組の経過

マツ材線虫病に罹患したアカマツは、樹脂の流動が減退し枯死するため、燻蒸材は正常なアカマツに比べ樹脂が少ないことが想定されました。通常、樹脂の多いアカマツは、薪として利用した際、煙突にススが多く付着し敬遠されがちですが、樹脂の少ない燻蒸材では、ススが煙突に付着しづらいの



図1 燃焼実験の状況

ではないかと考え、薪ストーブで燻蒸材の燃焼実験（図1）を行い、スス量の検証を行いました。

また、燻蒸材を薪として利用する場合の需要を把握する必要があると考え、遠野市内の薪ストーブ利用者114世帯に薪ストーブの利用実態等について聞き取り調査を行いました。

### 3 実行結果

スス量の検証については、①アカマツ（燻蒸材）、②アカマツ（正常材）、③ナラを同条件下で各約140kg 燃焼し、スス量を算出した結果（図2）、1kgあたり①363mg、②555mg、③413mgとなり、アカマツの燻蒸材は正常材に比べ35%、ナラに比べ12%ススの量が少ない結果となりました。

また、薪ストーブ利用者への聞き取り調査の結果については、遠野市宮守町を除く遠野市内88世帯では、アカマツを薪として利用しているのは8%だったのに対し、遠野市宮守町26世帯では62%の世帯が利用していました。また、遠野市宮守町では50%の世帯からアカマツの燻蒸材を「購入したい」あるいは「場合によっては購入したい」との回答が得られ、一定数の需要があることが判明しました。

### 4 考察

松くい虫被害木の燻蒸材は、薪としての利用価値があることから、地域の要望に応じて販売していくことで、燻蒸材滑落の防止、景観の改善、さらには地域住民への貢献にもつながっていきます。

今後は、HP等活用した、地域住民への伝わりやすい情報提供を行い、資源の有効利用に向けた取り組みをしていきたいと考えます。

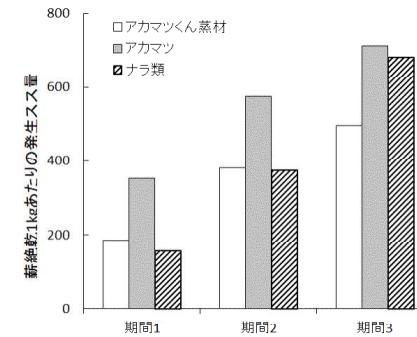


図2 薪絶乾1kg 当たりの発生スス量